

## 第1回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議録

- 1 会議の名称 第1回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議
- 2 開催日時 平成27年5月18日(月)午前10時～午前11時30分
- 3 開催場所 本庁舎前議会臨時庁舎 2階 全員協議会室
- 4 出席した者の氏名
  - (1) 水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員  
赤津一徳, 大久保博之, 大蔵勇人, 大関茂, 小田部卓, 川上美智子,  
川住昌光, 小池邦彦(代理), 齊藤恵, 佐川泰弘, 佐藤平八郎, 清水昌幸,  
田口文明, 田山知賀子, 出井滋信, 任田正史(代理), 中山義雄, 原毅(代理),  
保立武憲, 三上靖彦, 宮内久江, 八木岡努, 和田祐之介
  - (2) 執行機関  
高橋靖, 三宅正人, 長谷川昌人, 三宅陽子, 大関利明, 飛田尚亨, 板橋佳広
- 5 議題及び公開・非公開の別
  - (1) まち・ひと・しごと創生に向けた取組の基本的な方針等について(公開)
  - (2) 今後の進め方について(公開)
  - (3) その他(公開)
- 6 非公開の理由 適用なし
- 7 傍聴人の数(公開した場合に限る。) 3人
- 8 会議資料の名称
  - 資料① 水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員名簿
  - 資料② 水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議要項
  - 資料③ 国におけるまち・ひと・しごと創生について
  - 資料④ 水戸市におけるまち・ひと・しごと創生に向けた取組の基本的な方針
  - 資料⑤ 水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議スケジュール(案)  
(冊子)  
水戸市第6次総合計画

水戸市第6次総合計画3か年実施計画（2015年度～2017年度）  
水戸市の概要（平成26年版）

9 発言の内容

【執行機関】 それでは、ただいまから、第1回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催させていただきます。本日は、御多用の折にもかかわらず、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。本日は初めての会合でございますので、座長が選出されるまでの間、事務局で進行させていただきます。申し遅れましたが、私、水戸市政策企画課長の長谷川でございます。よろしくお願いたします。本日、報道の方が取材に入りますので、あらかじめ御承知お祈いたします。それでは、まずはじめに、高橋靖水戸市長より、御挨拶申し上げます。

【市長】 皆さん、おはようございます。それぞれの立場で公私共々御多用の中ではありますが、第1回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また、皆様方には、この会議メンバーをお引き受けくださいましたこと、心からお礼と感謝を申し上げる次第であります。また、それぞれの立場で本市政の全般にわたり、常日頃から御支援をいただいておりますことを心から感謝申し上げます。

地方創生という言葉が生まれて、最初は何のことなんだろうという思いもありましたけど、徐々にその動きが活発化されてきました。これは国においても、あるいは地方においても、しっかりこの動きを受け止めていかなければならないという、そういう状況にあると実感いたしているところであります。私たちも、このまち・ひと・しごと創生、いわゆる地方創生をしっかりと受け止めて独自の特徴ある、まさに自主・自立した政策を生み出して、この激しくなるであろう都市間競争に打ち勝ち、市民の豊かな暮らし、そして、まちの発展をしっかりと導き出していかなければならないと自覚しているところでございます。

今まで、地方分権や地域主権という言葉もありました。市民に一番身近な基礎自治体である私たちが様々な権限を持って、市民サービスを行うことによって、そのサービスが向上し、そして、市民の生活も豊かになるというところで、お題目があったわけではありますが、どちらかといいますと、それらは事務的効率化を図っていくというところがありまして、地方分権・地域主権といえども、市民一人一人にそのことが、いわゆる豊かさとして伝わっていなかったという部分があるのかと、地方の私たちも反省をすべき点であると思っております。

一方で今回の地方創生ということに関しては、私たちがその事務の効率化を図るとか、単なる権限を持つとかということではなく、真の市民の豊かさ、そして、まちの活力を引き出していかなければならないという、まさに厳しい時代であるからこそ、私たちの腕の見せ所だというふうに、思っているところでございます。東京圏への一極集中を是正していこう、そして、地方の人口減少を食い止めていこう、抑制をしていこう、という大きなお題目があるわけでございます。この水戸市も超高齢社会に突入をしているところでありますし、また、去年は、人口が7名ではあります、減少したという数字が出されてしまいました。いよいよ、本当に県庁所在地だからといって、安穩として構えているわけにはいなくなりました。非常に攻撃的に政策を打ち出し、そして、市民の安心安全で豊かな暮らしの実現への負託にしっかりと、お応えしていかなければならない重要な局面を迎えていると認識しているところでございます。

そういった中で、水戸市はもともと潜在力があるわけですし、自然とか歴史とか、芸術とか様々な特徴のある文化がございまして、それらをもっともっと伸ばして磨き上げ、特徴付けをして、そして、それらを基に水戸市の豊かさを求めていく、あるいは水戸に来たい、あるいは住んでみたい、そう思っただけのようなまちづくりをしていく、そういうような新たな取組をしていかなければならないわけでありましてけれども、まずは交流人口を増やしていくということも、もちろん大切ですが、私は、まちの中に住んでいただく、働いていただくことが一番大切ではないかと思っております。住む環境を整えていく、そして、この地でしっかりと安定した収入を得られるような働く場所がある、これが基本だと思っております。

今、県内を見渡してみますと、南北格差ということが言われています。これは、私が県議会議員になったちょうど10年前、平成17年の頃からそれが著しく見えてきた時代でございまして、ちょうどつくばエクスプレスが開通する頃でありました。さらには、圏央道が間もなく開通するという事で、つくばエクスプレス周辺地域の住環境整備がなされて、様々なインフラ整備がされて、そして、大型ショッピングセンターであるとか、いろいろな社会インフラが整ってきているところであります。そういった住環境が整えられて非常に住むということに関していい環境が整えられる中で、圏央道が整備をされて、そして、県南・県西地域の首長さんの話を聞くと、企業立地の引き合いが非常に多いということで何十町歩単位で、その工業団地であるとか、流通団地であるとかの造成をしていくという構想・計画があるということも伺っています。県の担当者にも聞いても企業立地の引き合いが圏央道を中心に多くなっているということも伺っています。そのため、私たちにおける1つの有利な材料として、上野東京ライン

が開通して東京駅や品川駅へ直通になったという、1つの公共交通ネットワークの推進があったわけですが、ただ、それ以上に県南地域が、ますます便利になってきております。住むことにおいても、あるいは会社を起こすことについても、非常に便利な地域になっています。そういった東京に近い、そして、便利だということを乗り越えて、水戸市で会社を起こしたい、県南地域を飛び越えても水戸に住みたい、そういう選択をしていただくまちをつくっていかなければ、地方創生と言っても人は住まない、誰も働きに来ない、会社を誰も起こさない、ということになってしまいます。この水戸市で会社を起こしていただくためにはどうしたらいいのか。水戸市だけでいいのか。あるいは北関東圏で何らか新しい経済圏をつくり上げるということが出来るのだろうか。あるいは県北・県央地域だけで経済圏をつくって、ここでお金を回すという手法があるのだろうか。そのようなことも皆様の専門的な考え方やこれまで培われた知識等により、様々な御提案をいただければありがたいと思っております。また、水戸に住んでいただくためにはどうしたらいいのか。何で選んでもらえるのだろうか。あるいは教育や福祉、子育て支援などに、様々なインセンティブ、有利さなどについても、皆様方に考えていただければありがたいと思っております。

私は、とにかく住んで働くことが、まず基本だと思っております。それと同時に、先ほど申し上げたとおり、総合計画の中で、特に、観光交流人口100万人以上を増やすという目標を掲げさせていただきました。これらについては、観光振興であるとか、あるいは芸術やスポーツといった様々なコンベンション機能の強化であるとか、水戸に来なければ体験・体感・見ることができない、東京では見ることができない、聞くこともできない、ここに来なければ触れることができないという特徴、そして、この触れるものがまさにブランド力を持ったものでなければならぬと思っております。私たちがつつい勘違いしてしまうのは、ブランド力という言葉ですが、「水戸の」と付けばブランドだと思ってしまうがちです。その「水戸の」というのが名前だけではなくて、他と比べて質が高い・レベルが高い、それが本当のブランドであって、単に頭に冠を付けたものがブランドではありません。付加価値が付いてこそブランドであります。それが選ばれるものでありますので、そのためにはどういう仕掛けが必要なのか、あるいはどういうハードの整備が必要なのか、そのようなことも皆様方のこれまでの専門性・経験を生かして案をお出しいただければありがたいと思っております。

いずれにいたしましても、都市間競争をどうしっかり受け止めていくかであり、その一方では、都市間競争に巻き込まれるな、みたいな話もあり

ます。しかしながら、私はきちんと競争をして勝つまちでなければ市民の豊かな暮らしを導き出すことができませんし、安心安全も確立できないと思っています。もちろん様々な都市間で連携・協働するということが大切だと思っておりますが、みんなで切磋琢磨してみんなが高め合っていく、その先導役、原動力として水戸市が進めていかなければならないと思っています。やはり水戸市が競争力を持てば、水戸市に負けるかということで他の市町村もそれに追随し、みんなで底上げしていけるわけであります。模範的、モデル的な都市として県庁所在地として役割を果たしていきたいと思っております。

いずれにいたしましても、特徴ある自主・自立したまちづくりというものを行うことによって、選ばれるまち、住むのにも、あるいは遊びにくるのにも選ばれるまち、これをつくるためにはどのような知恵とアイデアを磨き上げなければならないのかを、何度も申し上げますが、皆様方のこれまで積み上げてきた経験、持てる専門性に頼るところが大きくなりますので、よろしくお願いを申し上げます。

そして、平成27年度中に水戸版の総合戦略、そして、水戸版の人口ビジョンをつくり上げていかなければなりません。これも単なる計画、本を一冊つくるということではなくて、実効性のある総合戦略、人口ビジョンとしていきたいと思っております。自由かつ達にきたんない御意見をいただき、この有識者会議が有意義なものとなりますよう、皆様方の御協力をよろしくお願ひ申し上げまして、私からのお礼とお願ひの御挨拶に代えさせていただきますと思います。どうぞよろしくお願ひします。

【執行機関】ありがとうございました。次に、本日御出席の委員の皆様方の御紹介をさせていただきます。

(出席者紹介)

【執行機関】次に、事務局を紹介いたします。

(事務局紹介)

【執行機関】以上で、委員及び事務局の紹介を終わらせていただきます。続きまして、本会議の要項について事務局より御説明申し上げます。

(事務局 資料②に基づき説明)

【執行機関】ただいま要項について説明させていただきましたが、御質問等ござ

いますでしょうか。

[「意見なし」の声あり]

【執行機関】なければ次に進んでまいります。それでは、次第の4座長の選出に移らせていただきます。会議要項第5条第2項の規定では、有識者会議に座長を置くことになっておりますが、いかがいたしましょうか。

[「事務局一任」の声あり]

【執行機関】それでは、事務局案というお声がございましたので、御提案をさせていただきます。事務局といたしましては、\_\_\_\_\_の\_\_\_\_\_に座長をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

[「異議なし」の声あり]

【執行機関】ありがとうございます。それでは、委員の皆様に御了承をいただきましたので、座長には\_\_\_\_委員を決定させていただきます。\_\_\_\_委員には、座長のお席への御移動をお願いいたします。

それではここで、座長から御挨拶を頂戴したいと存じます。\_\_\_\_座長、よろしくをお願いいたします。

[座長 座長席に着く]

【座長】大変重い役でございますけれども、皆さんの御推薦いただきましたので務めさせていただきます。\_\_\_\_\_の\_\_\_\_\_です。改めて、よろしくをお願いいたします。

先ほど市長から御挨拶いただきましたとおりですが、地方分権から15年経って、いろいろな権限がおりてきましたが、地方の財源化がない、あるいは国の政府の縛りがいろいろある中で、皆さんそれぞれのお立場で非常にいろんな御苦労されていることだと思います。それで、いままでの取組に縛られることなく、縦横無尽にアイデアを出していけるような場にしたいと思います。大変難しいことだと思っておりますが、ぜひ皆さんのお知恵をいただければと思います。どうぞ御協力をお願いいたします。

【執行機関】ありがとうございます。会議中ではございますが、ここで、市長につきましては、大変申し訳ございませんが、所用がございますので、中座させていただきます。

[市長退室]

【執行機関】それでは、次に次第5の議事に移らせていただきますが、会議要項第5条第3項の規定に基づきまして、進行役を、\_\_\_\_座長をお願いしたいと存じます。よろしくをお願いいたします。

【座長】それでは議事に入ります前に、この会議自体非常に重要な会議でありまして、しっかりと記録を残していく、あるいは市民に対する説明責任を求められる場がありますので、議事録をしっかりとっていく必要がございます。それに当たりまして、今回の会議録の署名委員を指名させ

ていただきたいと思います。本日の会議終了後に会議録は作成いたしますが、その署名人といたしまして、\_\_\_\_委員と\_\_\_\_委員をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。それでは、議事に入らせていただきます。まず、ここで本会議の公開、非公開について、お諮りをしてまいりたいと存じます。皆さんに、公開、非公開をお諮りする前に、まず市で設けております審議会や委員会の公開、非公開の取り扱いについて、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局 会議等の公開、非公開の取扱いについて説明)

【座長】 ただいま御説明ありましたとおり、この会議は、総合戦略、人口ビジョンについて審議することを目的としておりまして、特定の個人情報などは扱わないと想定されます。また、これらを定めるに当たっては、広く住民の意見を聞くことを国からも求められていることでもあります。このようなことを含めて公開すべきだというふうに私は思いますが、会議の公開、非公開について、皆様いかがでしょうか。

[[異議なし]の声あり]

【座長】 それでは、今後の当会議につきましては、公開とすることで決定をいたしました。なお、すでに本日の会議の傍聴を希望されている方が3名見えているということでございます。入室いただきますので、よろしくお願ひいたします。

[傍聴人入室]

【座長】 続きまして、資料等の公表の方法等について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局 資料等の公表の方法等について説明)

【座長】 会議録を作成した日から7日以内に公表するというところでございますけれども、ただいまの説明について御質問がございましたら、お願ひいたします。

[[異議なし]の声あり]

【座長】 それでは議事次第の5の(1)「まち・ひと・しごと創生に向けた取組の基本的な方針について」に入っていきたいと思ひます。それでは、この(1)につきまして、事務局から説明を願ひます。

(事務局 資料③、④に基づき説明)

【座長】 ありがとうございます。昨年11月に国が制定した「まち・ひと・

しごと創生法」に基づき、国がまず総合戦略をつくり、各地方自治体にも地方版の総合戦略をつくるように求めているところでございます。それで、その基本的な方針を、水戸市においては、今年2月13日に決定をしたというところで、その内容について一括して説明がございました。ただいまの説明について、新しい枠組みでございますので不明な点があると思います。御意見・御質問等ございましたらお願いします。

具体的な内容については、次回以降、中身に沿ったところでたくさん質問が出てくると思いますので、特に御意見等がございましたら、次に進めさせていただきたいと思います。続きまして、「今後の進め方について」というのが(2)にございますけれども、この点につきまして事務局から説明をお願いします。

(事務局 資料⑤に基づき説明)

【座 長】ただいまの今年度のスケジュールについての説明がございましたが、そのことにつきまして御質問・御意見がございましたらお願いします。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】前の説明にもかかわることですが、この有識者会議の役割ですが、今いただいた御説明ですと、策定に当たって施策の検討を行う、というところですが、最初の有識者会議の要項の第1条を見ますと戦略を策定し推進するためにと書いてあります。そうしますと、この有識者会議の方々は、それぞれ水戸市内の主な団体の代表でございます。それぞれ組織を抱えている方々ですので、総合戦略にあげられてくる具体的な戦略、個々の施策をやるとしたら、ある程度この場というのは、計画をつくる行政だけではなく、一緒につくるわけでありますから、民間の立場での覚悟といいますか、やりますという決意をする場でもあるのかなという感じを持っているのですが、そういうやりとりをする場があったほうがいいのではないかと考えております。

もう1つは、それぞれ組織を持っているわけですから、先ほどのスケジュールを見ますと市民アンケートなどがあるのですが、それぞれの団体、会社、組織に対して、お尋ねいただくことはたくさんあるのではないかと。私たちに宿題ですね。次回の会議までこれについて、その組織の中で意見を聞いておいてください、考えておいてください、といったこともあった方がより実効性の高い計画づくりになるのではないかと考えております。

【座 長】今、お話が2つありまして、恐らく1つはここに出てくるプランをつくる段階を含めて、行政ではない民のセクターがどのようにかわっ

ていくのかということ、最終的に、この場が何をどこまで決めるのか、議論するのかという御質問かと思えますけれども、御意見ということでよろしいでしょうか。それとも事務局からお答えいただけますでしょうか。

【執行機関】ただいまいただきました御意見、それから宿題があった方が良いのではという御提案ですけれども、最後に御説明をさせていただこうと思っていたのですが、本日お配りした資料の他に、意見提案書という様式を別に配らせていただいております。こちらにつきましては、私たち職員、行政からだけの原案ではなく、様々な分野においての皆様からの御意見・御提案をいただきたいと思い、お配りをさせていただいております。お尋ねすることは多々ございますけれども、その前に、各団体様の立場からの御提案等いただければと考えておりますので、よろしく願いいたします。それが第一の宿題になってしまうかもしれません。

もう1点、民間の方の立場としての覚悟があったほうが良いのではと御意見をいただきました。大変ありがたいと思っております。今後進めていく中で原案等を協議してまいりますので、その中で具体的な進め方等、皆様に御協議させていただきながら進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【座長】恐らくここに出てくる前の案が専門部会で検討されて、そのプロセスの中でも、いろいろ団体の方とも共有をしたり、情報交換をしたりということを経て出てくるのではないかと、私自身は考えています。この意見提案書は戦略の中身もそうですけれども、進め方についても含めてということで、皆様から後ほど御説明があると思いますが、御提案いただければと思います。他の委員の方、いかがでしょうか。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】私どもまち・ひと・しごと・創生本部のいろいろな面で仕事をさせてもらっておりますが、この4月の下旬くらいからリーサスと呼ばれる地域経済の分析システムが、各自治体で利用可能な形で公表されて、一部人口動態等については一般の我々でも閲覧できるという、非常にしっかりしたデータベースが構築されているかと思えます。今回の有識者会議での議論でも、そのあたりのデータベースを使っていただいて、いわゆる今の地域の人口をはじめとした、あるいは経済の実態がどうなっているのか、そのあたりを場合によっては、次回あたり総合戦略の検討に当たり、いま水戸市の経済はどうなっているのか、今後人口がどういう動き、あるいは過去どういう動きだったのか、といった地域経済の見える化といったところで、一度皆さんと認識の共有を図られてみてはいいのではないかと思います。

【座 長】ありがとうございます。ある種のビッグデータといいますか、それを使った大がかりなデータベースシステムが、国の方でつくられておりました、それを使って人口ビジョン、あるいは総合戦略をつくってくださいと、国の方から言われているということです。一般には公表されていないながら、私も見てみましたけれど、表になっているところは全然面白くないものにとどまっております、ぜひそれを会議の場でも活用して議論していきたいというお申し出でありますけれど、よろしいでしょうか。ぜひお願いいたします。

\_\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_\_委員】それにあわせて、女性の就業率の目標値も出ていますので、水戸市のデータベースのお話もありましたけれど、実際に就業率等についてもあわせて資料をお願いできればと思います。

【座 長】女性の就業率等のデータということですね。

\_\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_\_委員】それにあわせて、本日6水総の3か年実施計画等を配られておりますけれども、現在水戸市が計画しているビッグプロジェクトがいくつかあると思いますが、そのあたりも共通理解の中で、いろいろどうするかというものが入ってくるかと思えます。次回にまとめてお話ししていただけるといいかなと思います。

【座 長】第6次の総合計画が動いているわけですが、今回の総合戦略との兼ね合いが大事なポイントになりますので、情報共有をしていくという点でも御説明をお願いしたいということでございます。

\_\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_\_委員】この会議は、将来にわたって最も重要な審議会の1つになると思いますが、待ったなしの人口減。最初に限界集落という言葉が出てから、その後、総務省の増田さんが消滅集落、消滅自治体という言葉を使って危機をあおって問題意識を提起されたわけですが、このままいくと全部の市町村を助けることはできないと、はっきりと国の考えが読み取れると思います。ですから、全部の自治体が栄えることはないという前提及び地方中核都市であるつくばや水戸などが、中核となって都市的機能を果たし、周辺市町村と連携して地域を支えていくのだという、1つの大きな流れの確認と、人口問題の話ですから、女性の就労、子育て、就職、自己実現、職場の対応、その他のことの横ぐしを、女性からの視点で入れないと、この会議はただ政策を並べただけの会議になってしまうと思います。どれだけ大変なのかということについては、本来なら今日パワーポイントなどを使って将来の姿、何も手を打たなければこうなってしまうということを共有していただいて始まるべきだと思います。

次回でも遅くないので、ぜひ共通の問題認識、危機感を共有するようなプレゼンを一度やっていただいて、そこから御意見をいただくということをしていただければと思います。

【座長】このままいけばどうなるのかということを含め、全景を共有できるような話を一度しておく必要があるという御指摘でございます。

\_\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_\_委員】話が脱線してしまうかもしれませんが、お許し願いたいと思います。

このまち・ひと・しごと創生に向けた取組ということでの会議だと思っておりますが、このまちができ、人が増え、仕事が増えたという、水戸市で自負している成功例があります。

1つ参考に、内原駅北区画整理事業が昨年完成しました。大きなショッピングセンターを呼ぶことによって、周辺にまちができました。そして、パートを含め雇用が2,000人から生まれ、仕事ができ、人が集まってきました。そして、内原小学校を今年3月に卒業した6年生が49名だったのが、79名と倍以上の小学1年生が入学してきました。このように、まちができ、人が集まり、仕事、雇用が2,000人から増えました。雇用が増えるということは、若い人が集まって来たということです。そういうことで、このような方法はまち・ひと・しごと創生にピッタリだったのかなど、1つの参考のお話です。手法はいろいろあり、長年かかる仕事もあると思いますが、短期間に立ち上げられる仕事もあるかと思えます。1つの方法・事例をお話しさせていただきました。

【座長】ありがとうございます。\_\_\_\_\_委員からも横ぐしにというお話もありましたが、それとも重なり合うところで参考になると思いますので、具体的に出てきたらぜひ内原ではこうやっているとお話ししていただければと思います。

\_\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_\_委員】資料の④の2頁に、ICTの活用とありますが、ICTとはどういうことなのでしょう。もう1つ4頁にできますKPIの検討とありますが、御説明願えませんでしょうか。

【座長】用語についての質問ですが、ICTとは、インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー。つまり、インターネット等を広報だけではなく、コミュニケーションにも使っていきましょう、ということであります。

KPIというのは、要するに何らかの事業をやる時に抽象的な文言だけを並べといてもうまくいかないのです、具体的にこういう戦略がうまくいっているということを明らかにできるのではないかという、何らかの指標を設けて、かつ、できるだけそれについて数値目標をつくって、期限を

区切ってそれをやっていき、検証しながら話を進めていきましょう。いままでもPDCAとありましたが、表現を変えて最近政府が使っている言葉です。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】地方創生というのは、市民目線が鍵を握っているのではないかと私は思っています。行政としてしなくてはならないのは、例えば、水戸の場合ですと、水戸の遺伝子といいますか、歴史的なものをしっかり把握して、それから特色、それを目指すところを、こういった大枠のところをきちんと捉えて議論をしていかないと、際限なくいろんな意見が出てきてしまうと心配しています。水戸はどういうまちを目指すのか、そういうコンセプトがはっきりしていないで議論すると、いろんな意見がたくさん出て、非常に特色のない地方創生になってくる恐れがあると心配しています。行政がつくられる会議で検討して、有識者会議に出すわけですが、その辺を十分把握してお願いできればありがたいと思っております。

【座長】ありがとうございます。総合計画もあって、それに重なるかと思いますが、行政としてもつくる時は当然意識されると思いますが、この場でまさに私も働いているわけですから、そういう観点からどんどん意見を出していくべきだと思っております。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】\_\_\_\_委員の発言と同じような趣旨ですが、総合計画と総合戦略との違いがどこにあるのかという話について、自覚しないと同じようなものになってしまうのではないかと心配があらうかと思っております。この有識者会議は、様々な方がお集まりいただいて自由に意見することが、非常に重要だと思っております。問題は、たくさんの人の意見をもれなく配備していくのが総合計画だと思うのですが、総合戦略は、その中からどのようにターゲットを絞り込んで、手順を決めていくのかということが重要だと思っております。今後、この有識者会議を含め、幅広く出てきた意見や様々なアイデアについて、いろいろなコンセプトを含めて、どういう手順でターゲットを絞り込んでいき、具体的な目標シートをつくっていかれるのかということについて、事務局の方でお考えになり、このような方針でいこうということがおありになれば、教えていただければと思っております。

【執行機関】ただいまの\_\_\_\_委員からの御質問にお答えいたします。先ほども御説明をしたところですが、各課に原案の依頼をしているのとあわせまして、全職員に対して職員提案の募集を呼びかけております。そして、ワークショップを先週立ち上げ、すでにスタートを切っているところがございます。まずは原案の提出具合の確認をしてまいりたいと考えてお

ります。

水戸市の取組の基本的な方針，これは6水総の将来都市像に掲げております「魁のまち・水戸」の実現，これは基本としていくことは変わりないのでありますが，さらに今回の総合戦略につきましては，まち・ひと・しごとの創生に資するということ，重点的に進めていきたいということで視点としてあげてございますので，そこを踏まえながら原案を見て，そして，人口ビジョン等の進め具合を含めましてターゲット，そしてターゲットに対して，より実効性のある施策を絞ってまいりたいと考えておりますので，よろしくお願ひしたいと思ひます。

【      委員】ありがとうございます。1つだけ。なぜ，この話が気になったかと申しますと，基本的な方針という資料④の2頁目のところで，しごとの創生という項目がございます。このしごとの創生という項目の上から2行目のところについて，あらゆる分野の産業について，というのがターゲットになっておりまして，そうしますと実際何をやるのかとなった時に具体的な話が出てきた時に，これをどういうふうに絞り込んで，浮き彫りにしていくのかというのが気になったものですから。一応方針としてこれが出ているので，その下の重点化を図る取組という中から詳細なものに絞り込まれるのかと思うのですけれども，そういうお考えでよいのかをお聞きしたかったものです。ありがとうございます。

【座長】全国的には，総合戦略ができているところもありますが，拝見いたしますと総合計画とほとんど変わらないものを出しているところがありまして，差別化といいますか，総合計画は前提になるところはあるけれども，この戦略は何なのだというあたりは，もう一段はつきりさせないと難しいところはあるかと私も思っているところです。

      委員どうぞ。

【      委員】私はこの席にはいますが，特に，有識者というほどではなく，子育て支援の団体の一員として，こちらの方に参加しております。先ほども女性という言葉が出てきましたように，女性・子育てというものに重点を置いていただきたいというのが，私たちの団体としての意見です。この中で感じたことがあり，確認したいのですけれども，資料④の2頁目です。この会議自体は，まち・ひと・しごと創生ですが，ここに出てきます①，②，③の順番はしごと・ひと・まちの順番になっているのが何か意味があるのかなとお聞きしたいのが1点です。

また，私の考えとしましては，内原の事例があったように，まちという受け皿があってそこに人が集まって，仕事が出てくる，そんなイメージがありまして，魅力あるまちがあればそこに人が集まり，そこで子育てがしやすければ，子育て世代が集まってくるのではないかと考えてお

ります。この 2 頁について何か御意見、お考えがあればお願いいたします。

【執行機関】御意見ありがとうございます。本市といたしましては、国の基本的な考え方にあるように、「しごと」と「ひと」の好循環をつくることによって、それを支える「まち」が発展していくということであります。基本的には、「しごと」と「ひと」というものに、まずは重点化を図り、さらに、その先につながる受け皿として、「まち」が発展していくという考え方を踏まえ、本市としては、「しごと・ひと・まち」という順番で、本市の基本方針を策定する中で整理したところでございます。

【座長】国の考え方というか、順番があえて違うというところはあるのでしょうか。

【執行機関】国の方では「まち・ひと・しごと」という順番になっておりますが、国の方で示しているパンフレットやリーフレットの中でも、「しごと」と「ひと」という部分の好循環を図ることによって「まち」が発展していくという基本的な考え方がございまして、この考え方に基づき本市としては取り入れているところでございます。

【座長】資料③の最後の図においても、「しごと」と「ひと」が先に来ているところがありますが、なぜ「まち・ひと・しごと」という名前の順番で法律ができたのかという部分が不明ではありますが、そのような考え方で立てているということでございます。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】水戸市の人口動態を見ると社会増はあります。けれども自然増がどんどん減ってきているということで、やはり社会増。仕事を今回 1 番最初にもってこられたのは多分、社会増、転入者というか流入人口を増やしたいという意向があるのかと受け取ったのですが、そうすると先ほど\_\_\_\_委員から話のあった、水戸市らしい元々のものと、新たに転入してくる人への魅力を持った水戸と、この 2 つが必要になってくるのかなと思います。人口動態を見る時に、どちらを重点的にやっていくのか、そのあたりを入れていただきたいと思います。

【座長】おっしゃる通りだと思います。社会増・自然増、両方の観点を持ちあわせて戦略をどうしていくのかということ、考えていくということですね。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】「水戸市の概要」の水戸市の 1 日という、たまたま最初にもらった平成 20 年度の資料の時は、1 日の出産率の方が死亡率より高かったのですが、本日の資料にもありますように、死亡率が 1 日 7 名、生まれた方は 6. 7 名という数値。平成 22 年度から水戸市は完全に自然減。市長が声

高々に交流人口だと言っているのもなるほどという感想であります。この数値は、たまたま最新版を図書館に行った時にぱっと見たもので、要するに平成21年から水戸市は人口が減っている。自然減であります。

聞いた話ですが、協同病院が建て替えるをすることで、新しい科も含めて二十何科あるということですが、産科と小児科はつくらないと聞いたのですが、合っていますか。ここで聞く話かどうかはわかりませんが。

【執行機関】 申し訳ありませんが、手元に情報がありませんので、分かりかねます。

【座長】 そこは分からないということで、申し訳ありません。

自然増に目を向けるべきだというお話だと思います。他よろしいでしょうか。

本格的にはこれからになりますが、各委員の方からこういう観点をぜひ入れてほしいという意見が相次ぎました。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】 まちの魅力というのは、全国各地と同じ様な平均的なものが揃っているということではないと思います。まちの魅力というのは突出した個性があるということが魅力に通ずるわけで、そういう形でどこにもあるような平均的な数字を少しオーバーしているというようなこと。これは当然インフラ整備という形で当然のことだと思いますけれど、それにプラス、先ほど申し上げたことに関連しますけれど、大きな魅力がある、個性がある、というのがまちの魅力。それに人口に関しましても、水戸に住んでいるということに誇りを持つようなまち。そういうものをつくり上げないと、大都市圏の死角のような、何が何だか分からないことになってしまう。地方都市というのは、特にそういうことが要求されると思います。それがないと、どこに行っても同じということになりますので、議論するポイントというのは、魅力をいかに高めるかということが1つと、それに付随した住んでいることへの誇り、そういったものを高めるということは非常に重要なことだと思います。以上、議論する上でそういうことを頭に入れて議論していただければありがたいと思います。

【座長】 ありがとうございます。個性を出せというふうに、戦略を立てるにあたって求められているところであるのですけれども、それは半分感覚的なものになるかもしれませんので、いずれにしても時間を取ってそういう個性とか、住んでいることの誇りとか、どこが特色か一度検討をしておくことが必要かと思えます。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】 今年から小中学生を対象に、水戸学や郷土を愛する教育を総合学習

の中に入れるようにいたしました。子どもからそういうものをきちんとものを学んで聞かせる、そういう方向でございます。

【座長】ありがとうございます。私も水戸生まれではないので、存じ上げないことがたくさんあると思います。もし、子どもに配っている資料を含め、事前にいただければいろいろ勉強させていただきたいと思います。

【\_\_\_委員】副読本です。

【座長】はい、副読本ですね。

\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_委員】今の論議にあわせて、水戸市はこれから中核市になります。中核市になる県都・水戸市としての役割、中核市になった時に、例えば、保健所が水戸市で一括であるとか、いままでと変容する部分があるので、その辺あたりの内容についてもきちんと計画の中で論議していく必要があるかなという件です。

【座長】恐らく時間的には中核市になるには時間がかかるかもしれない。いま立てようとしている総合戦略が5年のものとしたら、中核市はもう少し時間のかかる話なのかもしれないと、伺っておりますけれども、いずれにしてもそういうことは念頭においた上で、長期のビジョンをとということかと思しますので、その点もあわせてお願いいたします。

よろしいでしょうか。

\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_委員】これまでの議論と似ている部分があるのですが、先ほども仕事と人とまちとの関係性のお話があったんですけども、仕事をつくり、人が集まり、まちができるというのも一説あるのですが、実際ここは県都です。先ほど\_\_\_委員もおっしゃっていたのですが、県都らしいアイデンティティをつくっていくという議論があったのですが、実は水戸周辺の市町村はどんな戦略を立ててくるかと想定した時に、恐らく水戸に仕事の間を求めたベッドタウンを考えてくる市町村がきっとあるのではないかと思います。仕事の間だけをつくれれば人に本当に住んでいただけるかという、先ほど\_\_\_委員がおっしゃっていたような、住みやすいまちにして、いわゆる人口の維持再生産の循環ができるようなまちをしていかないと、恐らく近隣の市町村はこういった形でベッドタウン化を進めてくる可能性がある。思うように水戸の人口は増えないという可能性が出てくるのではないかと懸念があります。産業が輸出依存型産業か、内需型か。ここでは重点化を図る取組分野は、どちらかというとな内需を想定しているような感じですが、この辺もまたあると思うのです。

少し話が飛んで恐縮ですが、冒頭に市長が「交流人口より定住」とおっしゃっていたのですが、交流人口も人がここに訪れるようになれば、

それに基づいて雇用の創出につながるわけです。必ずしもそれがストレートではなくとも雇用の場を、内需型の雇用に創出して、なおかつそこが住みやすいまちであれば、あるいは教育レベルが高かったり、ということで長く住んでいきたいインセンティブが高まれば、人口が集まる可能性があると思うのです。いろんな考え方があると思います。あまり最初から1つの枠組みに固執しない方がいいということと、今回の計画づくりは庁内の全階層を対象にしていますね。市民と共同でつくるというのは、市民との協働だと思うのです。ですから、いわゆるボトムアップかトップダウンかという部分もあると思います。あまねく全員の意見を聞いていくと総花的になってしまうところもあると思うのです。庁内の本部組織がどう絞り込むかという時に大事になってくると思うので、絞り込む時に一辺倒な考えを持たない方がいいのではないかと懸念をしたので、申し上げさせていただきました。

【座長】 \_\_\_\_ 委員どうぞ。

【 \_\_\_\_ 委員】人口が減少社会に入って、将来人口が減っています。これは経済からいろいろなものに影響を与えるということで、とにかく国立社会保障・人口問題研究所の推計でいうと、2100年には5000万人を切って4000万台人の人口にまでなってしまうだろうと言っています。そこには経済とか何か言っていてはだめだろうと、本当に人というものを大事にしながら日本の人口をある程度維持した、そして、経済力、それから関係のいい国をつくっていかうということで、多分これはつくられたと思っています。したがって、各市町村でもやっているし、都道府県でもやっています。「地方消滅」という増田先生が書いた本の話が \_\_\_\_ 先生から出ました。現状分析とあわせて、若干の提言入っておりますし、読んでみるとなるほどそういうことだよなという意識になりますし、そのあと出された先生の本では、そのような考え方ではだめなんだと。それは限界集落になって、集落がなくなったところはダムで陥没しているところ以外は無いということが先生の書かれた本であります。要するに、人をちゃんと増やしていく、住みよいまちにしていく、住みよいまちにして人を増やしていくというのは、ものすごく幅広い視点から捉えていかないとだめなんだと。

当然、先ほど新しい病院にこういった科ができるのですかという御質問がありましたけれど、嫁いだ先から初めての子どもだから帰省して産みたいといってもなかなか受け入れられないという状況もあります。そういった幅広い視点から見ていかなければならない、この計画は偏ったものではない。ものすごく幅広い視点でやっていかなければならない。だから、全庁をあげてやっていくのだろうと思っています。

それから、地域の人たちの意見を聞かなければならない。意見を聞くということは本当に深く考えている人と、そうではなくノーマルなスタンスで、普通の常識で考えている人など、いろんな方がおいでになりますので、その中で本当に大事な部分については単に意見を聞くというよりは、そういう理解をしてもらいながら今後の話を詰めていく必要があると思います。我々は計画が出てきたものについて、本当にそういう形でいいのかどうかという審議をするという形になるのだらうと思います。原案をつくる時には幅広い視点からより多くの意見を踏まえてまとめていかなければならないなと思います。よろしくお願ひいたします。

【座長】 \_\_\_ 委員どうぞ。

【 \_\_\_ 委員】先ほど周辺の市町村のお話あり、市長からも北関東圏・県北圏などのお話がありましたけれど、将来的に広域合併のことを考えたら、いま周辺市町村から人を取ってしまったら自分の市の中に過疎地をつくることになるわけです。

昔の藩というのは全国的にいろいろ特色があり役割分担をしていたわけです。水戸を名主と思うというエリアというのはきっとあると思います。水戸を仲間だと思っているエリア。そういう周辺の市町村とは、ある程度水戸の人口を増やしたいのもありますけど、どう役割分担をしていくかということで、全体としてこの広域水戸圏がどう浮かび上がってくるかという視点もかなり大切だと思っております。

【座長】 \_\_\_ 委員どうぞ。

【 \_\_\_ 委員】これからつくられるこの戦略が、茨城県でつくられる市町村の総合戦略で最も重要なものだと思います。県都の戦略なわけです。いわゆるいろいろな市町村がありますけれども、それとは違って、水戸でこれからつくられるのは、茨城県全体に関わる茨城県の県都がどういうふうなビジョンを出して、どうやっていくかというお話だと思います。今の \_\_\_ 委員や \_\_\_ 委員のお話を含め、県都のビジョンをどう出すかということなので、そこを一般の市町村と同じ様な発想ではなく、県都なのでこのようにするというのが、非常に重要ではないかと思ひます。

【座長】よろしいでしょうか。本当に、恐らく本格的に議論が始まると1回の会議が何時間かかるかなという気もしないでもないですけれども、できるだけ具体的に、これだけのメンバーが集まる会議は、水戸市においてもそうないと思ひますので、いろいろな側面から意見をいただければと思ひます。私も言いたいことはありますけれど、本日は控えさせていただきます。

それでは他の（2）までの話で御意見等がほかにございませんでしたら、その他の方に入っていきたいと思ひます。それでは、その他のとこ

ろについて、先ほどもお話があったかもしれませんが、よろしく願い  
いたします。

(事務局説明)

【座 長】 次回の日程についてですけれども、8月下旬に総合戦略と人口ビジ  
ョンの骨子案について審議するということでございます。よろしいでし  
ょうか。

[[異議なし]の声あり]

【座 長】 ほかの点で何かございますでしょうか。

【執行機関】 先ほど御質問にお答えした時にも御説明させていただいたのですが、  
委員の皆様からこの会議の進行及び新たな提案につきましても、自由な  
意見をいただければと思ひまして様式をお配りさせていただいておりま  
す。様式をお配りしておりますが、これにかかわらず任意の様式でかま  
いませので、できれば6月いっぱいくらいまでに政策審議室の方に、  
ファックスまたはメール等でお送りいただければ大変ありがたいと思ひ  
ますので、よろしく願いいたします。

【座 長】 内容など進め方の御意見についても、もちろん、ここで出されたも  
のは当然ですけれども、その他ございましたら6月いっぱいくらいとい  
うことで、ぜひ出していただきたいと思ひます。

\_\_\_\_委員どうぞ。

【\_\_\_\_委員】 \_\_\_\_委員から御提案のあった現状分析のデータ関係をみんなで共有  
をした方がいいというお話があったのですが、そのタイミングという  
のは次回が8月下旬だとすると、その次になりますでしょうか。

その時に突然見せられましても、なかなか皆さん理解が難しいと思ひ  
ますので、8月下旬の議論にはある程度見たうえで、参加したいと思ひ  
ます。

【座 長】 戦略を見る前の現状・課題の認識ということですね。場合によつて  
は公式の委員会にするか、あるいは公式ではなく学習会・講習会によ  
うな形で日程を設定していただいて、1回それができそうならやる。それ  
を先にやっていただいた方が骨子案を議論するにしても実りある議論に  
なるということですね。

【\_\_\_\_委員】 恐らくそういう趣旨ですよ。

【座 長】 先週伺ったところでは、まだ市の職員の方もデータベースになかな  
かアクセスできないような状況にとどまっているので、めどが立ったと  
ころで、私と相談させていただいて、全員が御出席というのは難しいか  
と思ひますけども、どこかでそういう場を持った方がいいと思ひますの

で、調整させていただきます。

それでは、長時間になりましたけれども以上をもちまして、第1回水戸市まち・ひと・しごと創生有識者会議を終了させていただきます。

本日の内容に限らず、御不明な点がございましたら事務局まで御連絡くださいということで伺っております。よろしくお願いいたします。本日はお疲れ様でした。